

モニタリングサイト1000里地調査 チョウ類調査（概要版）

（財）日本自然保護協会

NACS-J
THE NATURE CONSERVATION SOCIETY
OF JAPAN


モニタリングサイト1000
Since 2003



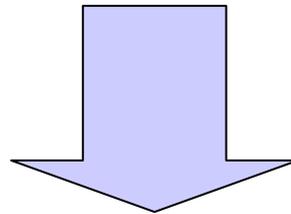
なぜチョウを調査するの？

□チョウの生態

- ・幼虫の頃 → 特定の植物を食べる
(例: ミズイロオナガシジミはブナ科の葉を食物にする)
- ・成虫の頃 → 花を訪れ花粉を運ぶ・樹液を吸う
(例: ミズイロオナガシジミはクリやウツギの花の蜜を吸い花粉を運ぶ)

生活史を通じて
植物との
深いつながり

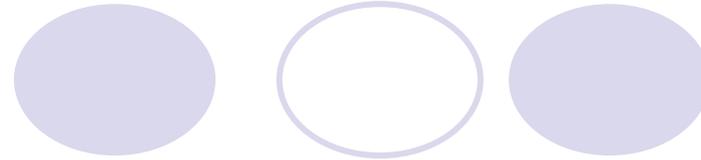
ミズイロ
オナガシジミ



里地の森林や草地の植生、里地の
管理状況が把握できる



調査概要



□目的

チョウを調査することで里山の植生の変化を把握する

□時期

チョウの出現期

(寒冷地や温暖な地域を除き、主に4月～11月上旬)

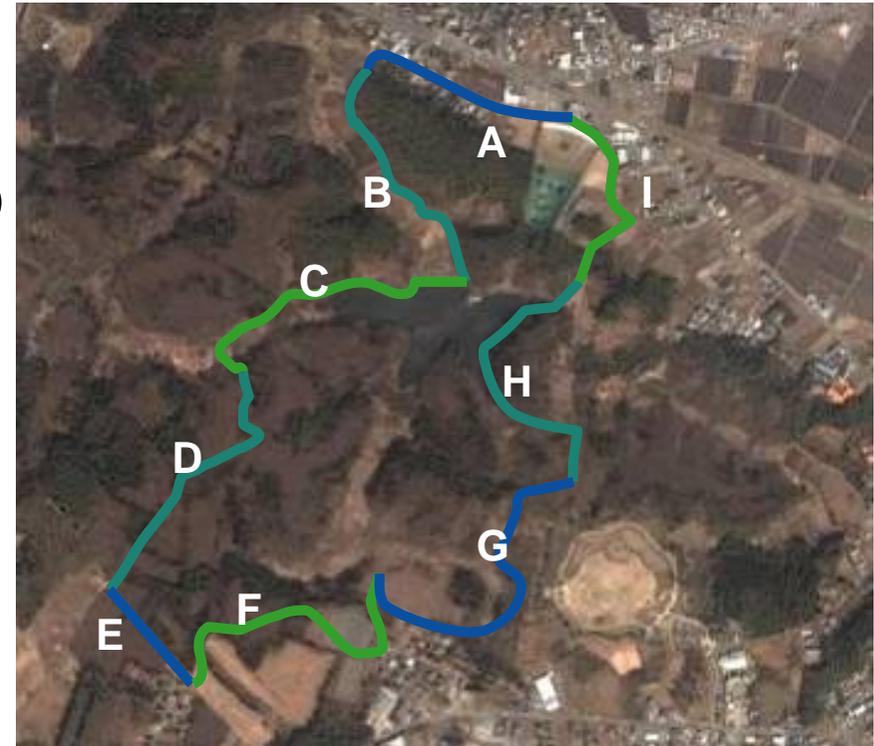
□方法

- ・調査ルートを設定する
- ・ルート内を歩き、確認されたチョウの種名と数を記録する
- ・チョウの出現期(上記の時期)に月2回調査する



調査ルートを設定しよう！

- **2~4km**のルートを設定
(なるべく森林・水田・畑などの
複数の景観が含まれるように
する)
- A・B・C・・・というように
景観ごとの区間に区切る



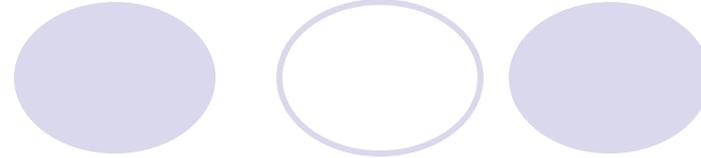
※植物などの調査をしている
場合はルートを共有すると
相互関係がわかりやすい

◆景観タイプの例◆

- ・森林 ・水田(休耕田を含む)
- ・草地(畑、耕作放棄地、牧草地、etc.)
- ・湿地(ヨシ原、池沼、ため池を含む)
- ・市街地 など



調査の条件



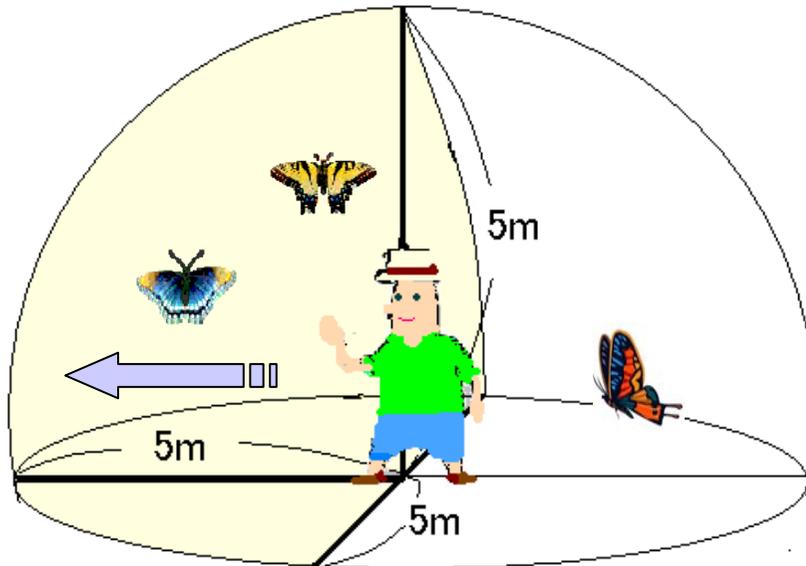
- チョウの飛びやすい気象条件の時に実施
 - ・ **晴天・無風**の日に行うのがベスト
(悪天候の場合は中止する)
 - ・ **午前10時～午後3時**の間に実施
- **チョウの出現期**(主に4月～11月上旬)に
月2回
(約2週間に1回)実施





いざ調査へ！

- 調査ルート内を一定の速度（約2km/h）で歩く
- 左右・前方・上方の**5m以内**で確認されたチョウの種名・数を記録
(後方や休憩時間に確認したものは除外する)



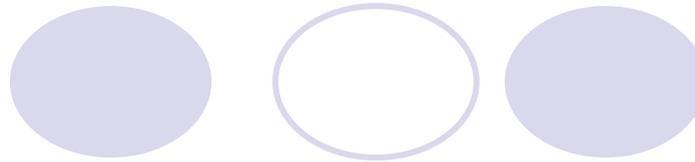
□ …記録する範囲

同定する際には立ち止まって
写真を撮ったり、一時的に
捕獲して図鑑などで確認
しても良い





記入のしかた



モニ1000里地 チョウ類 調査記録用紙 ver3

サイト番号・名: 001-00の里山 調査主担当者名: 高川晋一
 その他参加者名: _____

調査日: 2006年5月20日 調査票 1枚目/全1枚
 ① 開始時刻: 10時00分 天候: 快晴・晴れ・薄曇り・曇り ()
 日差し: 直射・薄日・なし 雲量: 0% 気温: 18°C 風力: 0・①・2・3・4・5
 終了時刻: 12時30分 天候: 快晴・晴れ・薄曇り・曇り ()
 日差し: 直射・薄日・なし 雲量: 0% 気温: 24°C 風力: 0・1・②・3・4・5

② メモ: 区間Eは林縁部の農道で草刈りがされたばかり、本サイトでツマグロヒョウモン初確認!!

区間	③ 種名	合計④	カウント	⑤ 範囲外/時間外	⑥ 備考
A	ツマグロヒョウモン	1		⑤ 範囲外/時間外	本サイトで初確認
B	ヒメウラナシヤノ	1	-	範囲外・時外	

サイト名、担当者名の他に

①調査条件
(調査日・時刻・天候
日差し・気温など)

②メモ
(調査条件に関して
+α)

③チョウの種名・
区間名

④個体数

⑤範囲外/時間外の
チェック

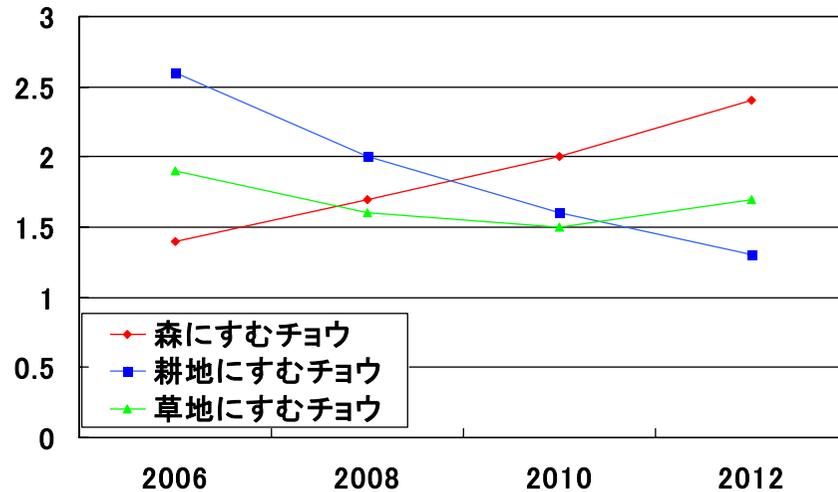
⑥備考

などを記入



調査からわかること

【個体数の変化】



【分布域の変化】



例：データの比較からわかること

- **個体数の変化**
 - ・上図：個体数の多い種の入替わり
- **分布域の変化**
 - ・下図：南方種の分布が拡大



個体数の変化や分布の変化を把握することで、地域の保全活動に役立てることができる

